

大切な人を癌で亡くしたお子さんにそっと寄り添う

親御さんとの死別を体験したお子さんのグリーフ(悲しみ)がどれほど深いものか、多くは言葉で表現されないだけに私たち周囲の大人は、その接し方に苦慮します。特に、癌という疾病の場合、病名・余命の告知を何時するか、時に長期に及ぶ治療法の説明など、お子さんに聞かせるには辛すぎるのではとの気遣いが、むしろ事実に触れないようするなどの遠慮がちの対応となるかもしれません。グリーフはお子さんの心と身体、学業など生活のさまざまな分野で強く影響を与えますが、その影響をお子さん自身でコントロールすることはできません。また、その時の気持ちや考えを語ることは難しく、遊びや行動を通して表現することがほとんどです。私たちはそのようなお子さん一人一人表現の意味を理解し、緩やかな回復を待ちたいものです。温かな気持ちでお子さんにそっと寄り添い、支えていきたい、そう願いながら。

AIMS顧問 井上孝代
明治学院大学名誉教授
博士(教育心理学)
臨床心理士
MCC(マクロカウンセリング&
コンサルティングセンター)代表



詳しい情報はこちらをご覧ください



こちらのQRコードを読み取ると、AIMSホームページ・Instagram・Facebookページへのリンクを表示します。「QRのススメ」のQRコードサービスを利用しております。

AIMSは・・・

親をがんで亡くした子ども達の心のケア
及び健全な成長のサポートをしていきます。

参加者募集中

グリーフケアプログラムに
参加いただけるご家族を募集中です。

隔月の週末に開催中♪

開催地:東京都区内、大阪市内

参加費は無料です。

ご参加の申し込みは事務局メールアドレスまで以下の内容をお送りください。

- ・保護者の方の氏名・年齢
- ・お子様の年齢・性別
- ・ご連絡先住所
- ・ご連絡電話番号(携帯可)

※AIMSの正会員・賛助会員であることや、寄付を参加条件とはしていません。

AIMSは、活動の主旨にご賛同いただいた多くの皆さんの会費と寄付で運営をしております。お気軽にご利用ください。

詳しい情報はwebでご確認ください。

お問合せはお気軽に

特定非営利活動法人AIMS

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-3-13-802

<https://www.aims-japan.org/>
info@aims-japan.org

代表:高井伸太郎

グリーフケアって
なんだろう?



どんなプログラム
があるの?

親をがんで亡くした子どものための

グリーフケア
プログラム

がんでなくなるパパやママをもつ
子どものためにできること



グリーフケアプログラム?

AIMSのグリーフケアプログラムは、同じ立場・境遇にあるもの同士がサポートすることを目的としたピアサポート・プログラムです。

訓練を受けたファシリテーターの見守りの中で、子ども同士が話し、共に遊ぶことで、グリーフのケアの場を提供します。

うちの子は意外と元気だし、大丈夫よ!

だいぶ時間も経過したし、もう、大丈夫よね…

同じ経験をした子といたら余計辛いのでは…

子どもは、自分の悲しみを表現することが得意ではありません。表面的に以前と変わらないからといっても、単に表現の仕方が分からなかったり、周りの大人に気を遣ってあえて平静を装っているということもあります。

また、学校やお友達にも自分の気持ちをうまく伝えられず、心の負担を抱えてしまっていることもあります。

親を亡くしたという事実は時間の経過によって消えてしまうことではなく、喪失に基づく感情・グリーフというものは長期間にわたって続くものです。長期間にわたって、子どもの気持ちにより添う、ということが大事になります。

子どものグループ

ある日のプログラム…

好きな色のペンやクレヨンで名札を作るよ。

【はじまりの時間になったら、保護者の方は別室へ】



はじまりの輪 (約10～20分)

みんなで輪になって、約束事の確認と自己紹介、喪失体験を話すよ。(話したくない子はパスも出来るよ)

みんなの喪失体験を聞く事で、自分だけじゃないんだと認識する場でもあります

あそびの時間 (約60分)

おもちゃやゲーム、身体を動かす道具など色々あるから、遊びたい物で遊ぶよ。



遊びは子どものグリーフケアにとってとても大切です。子どもは創造的な遊び、絵や工作を通じて悲しみを表現し、発散します



おわりの輪 (約10～20分)

プログラムの終わりには、その日遊んだことを振り返るよ。保護者の方が迎えにきたら、解散だよ。

プログラムが終了したことを確認する事で、気持ちを切り替えます

大人のグループ

子どもの会と並行して大人の会を開催します。

こちらは、落ち着いた雰囲気の中で、子どもを育てるうえでの不安を話し合ったり、喪失体験を分かち合ったり、子どもの心のケアについて学んだりすることを通じて、互いにサポートしあいます。

保護者の方はプログラムに参加しなくてもかまいませんが、AIMSでは、保護者の方にも是非サポートグループに参加していただきたいと考えています。

参加者の声

AIMSに参加して、子どもたちが変わったように感じます。小さな胸に抱えきれないほどの悲しみを抱え、苦しんでいるようにみえた子どもたちが、参加することで思いを少しずつ外へ出せるようになったからではないかと思います。

お母様より

同じ悩みを持った方々とお話ができ本当に良かったです。

お父様より

友達にも先生にも言えなかった「親を亡くす」という経験をしました。だれかに相談したくても、「からかわれる」「変だと思われる」と感じて言えませんでした。

でも、AIMSを見つけて参加してみると、同じように親や大切な人を亡くした人がたくさんいて、「自分だけじゃないんだ」と安心しました。それからは、友達にも先生にも話したり、相談したりできるようになりました。

10歳のお子様より

友達がつくれて楽しいです。

8歳のお子様より

私はAIMSに参加して、いろいろな人が、いろいろな病気で大事な人を亡くしてしまっていると聞いて、私は一人じゃないと感じました。

7歳のお子様より